

令和元年度
除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組
プラットフォーム(第5回)

議事概要

1. 日時 令和元年6月26日(水) 13:30～15:00
2. 場所 TKP札幌駅カンファレンスセンター(3F) カンファレンスルーム3C
3. 議事
 - (1) 構成員の追加について
 - (2) 今春の実証実験結果
 - (3) 令和元年度の実証実験結果
 - (4) その他(情報提供)
4. 議事要旨
 - (1) 構成員の追加について
 - ・今回から新たに5社が構成員として参加
アイサンテクノロジー(株)、(株)NICHIJO、(株)協和機械製作所、(株)岩崎、
(一財)衛星測位利用推進センター。
 - (2) 今春の実証実験結果 (北海道開発局)
 - ・投雪装置の自動制御システムに予め登録された変更点で、ブローアが左右に自動で変更。ガイダンスシステムの精度、不感地帯の課題について今後検討。
 - (3) 令和元年度の実証実験結果(北海道開発局)
 - ・今年度はシュート投雪自動化、画像鮮明化のリアルタイム処理の検討などに取り組む。また、プラットフォームとして初めて「除雪機械の高度化推進グループ」を結成し、寒地土木研究所と実証実験を進める。

(4) その他(情報提供)

1. 「衛星不感地帯の補完技術及び周囲探知技術に関する実験」(寒地土木研究所)
 - ・衛星不感地帯の補完技術、自車位置推定について、磁気センサーを用いた自車位置推定システムを除雪車に搭載して実験を行った。
2. 「除雪機械情報化施工取り組み状況」(北陸地方整備局北陸技術事務所)
 - ・i-Snowの目的と同じく、熟練オペレーターの高齢化により減少していく中で、ICTによる除雪作業支援が開発の目標。除雪トラックのマシンコントロール化のため、位置情報、地図データと作業装置の制御を検討している。
3. 「歩道除雪における誘導員の代替技術の研究について」(札幌市 雪対策室計画課)
 - ・昨年度、「冬の道づくりプラン2018」を策定した。歩道除雪では、助手や誘導員の不足が課題。カメラ・センサ等の代替技術について研究している。
4. 「GNSS受信機の最新動向について」((一財)衛星測位利用推進センター)
 - ・現在、政府が進めている7機体制の状況と準天頂衛星の受信機の最新状況等について報告。
5. 「知床峠の地殻変動補正について」(アイサンテクノロジー(株))
 - ・知床半島は比較的地殻変動が少ない地域。ただし、地震等起きた場合には、1cm程度動くこともある。セミ・ダイナミック補正を行うことを推奨。

以上